

北見民報

No 1074
15. 5. 17

発行
北見民報社
北見市幸町1-1
Tel. 25-5121
FAX. 61-7478

保険料引き下げを確信に更なる国保改善を

国保をよくする会が総会と講演会

北見市の国保をよくする会は、11日に総会と学習講演会を行い、高すぎる保険料の引き下げをはじめとする国保改善の3年目の運動をスタートしました。



総会の冒頭、よくする会の佐々木泰会長は「昨年、国保料引き下げを求める多くの市民の願いに市議会は背を向けたが、市は今年、国保料を一人あたり7千700円(医療分と後期高齢者医療支援分)の引き下げとなった。私たちの運動

の成果だ」とあいさつしました。

総会の第一部として、「国保都道府県化と国保改善運動」をテーマに札幌社会保険推進協議会の齊藤浩司事務局長が講演しました。(講演要旨は裏面に掲載)

今年には市長あての署名にとりくむ

今年の国保料が下がったと言っても、まだまだ年収の1割を超える保険料、収入が減り続ける中で負担しきれない保険料の実態があり、道内でも高水準の資格証明書発行数など、まだまだ問題は山積みです。今年度の活動方針では、市長宛の保険料引き下げを



雲が切れ、黒々しい斜里岳がスッキリと！

連休が終わって「どこに行ってきた?」事務所内の

て学習する、「より良い国保制度」を求めての共同を

最初の会話。でも、お土産がない。もしかしたら、自宅連休か? 私はおらずと、珍しいとも言えない「羊羹」と「大鵬せんべい」を出す。と、「阿寒に行つたの?」「いや、道東3地域を走つた」、「すごいーどこまで、何百キロ走つたの?」、「うん、陸別(十勝)と弟子屈(釧根)と清里(オホーツク)の道東3地区、そして帰ってきたさ!」 地図

広がる活動に取り組みことなどを確認しました。

約100名、最盛期にはさらに150人の従業員が働く工場。所長、副所長が揃って出迎え、甜菜(ビート)をめぐる豊富な資料と共に詳しく説明が行われました。

美幌町で農業などで調査活動

美幌町長やJAびほろ組合長とも懇談

美幌町長と懇談

美幌町で農業などで調査活動。町長とJAびほろ組合長とも懇談。日甜工場だけで美幌町に40億円の経済効果。TPP実施ではほぼ全滅。「何としても阻止しよう!」と畠山氏。最初の調査は、日甜美幌製糖所の調査です。職員は

30分意見交換しました。この調査には、菊池豪一北見市議、菅原誠12区事務所長、大江道男美幌町議が同行しました。日甜工場だけで美幌町に40億円の経済効果。TPP実施ではほぼ全滅。「何としても阻止しよう!」と畠山氏。最初の調査は、日甜美幌製糖所の調査です。職員は(裏面につづく)

(1面からのうづき)

人件費などで10億円、国からの交付金が10億円と全体で40億円の経済効果になります。

TPPの経済的影響額が美幌町だけで300億円と言いますから、TPP実施で製糖は全滅との予想なので、重要な産業の位置を占めている」と説明しました。

畠山衆議は、「詳しい説明に感謝します。あらためて、輪作体系の重要性が理解できました。何としても阻止するために、北海道の代表として頑張

国保都道府県化と国保の改善運動

国保を良くする会総会での齊藤札幌 社保協事務局長の講演から (抜粋)

都道府県化…今後の地域の取り組みがカギ

国は効率化・重点化を口実に、医療から介護へ、施設から在宅への政策で、医療や介護の費用削減をすすめるようとしており、都道府県単位での抑制を図る狙いをもって国保の都道府県化をやろうとしている。

しかし今後の方向として、保険者は都道府県と市町村、窓口は市町村とされ、市町村に大きな役割が残ったことから、今後、各自治体での運動がカギになる。

国保料、運動があったから引き下げ実現

国保料が高いのは、国庫負担の削減、保険料を決めるときに算定方式(所得額が大きくなる方式に変更)などに原因がある。

保険料の高い、安いは他の町との比較ではなく、加入者の生活実態からみてどうなのかが大事。国保世帯の所得が下がり続けるも

で、負担感は一層大きくなっている。

国庫負担の増、軽減策を増やすことなどを求めるとともに自治体独自の取り組みを強めるよう働きかけることが大事。

国が公費拡充による支援策をとったが、北見も含めて運動があった自治体は行政が決断し、保険料値下げにつながった。

資格証明書発行は医療を受ける権利を奪う

資格証明書の発行は「医療を受ける権利を奪う」という認識が欠けているから行われる。大量発行は収率向上にはつながらない。道内でも「手遅れ死」が多発している。

行政に「払えない実態」を示し、対応を迫っていく。

市民の暮らしが大変さを増す中で、要求運動としては財源があるかないかを前提に考えるのではなく、切実な実態にもとづいたかお。

TPPが重大局面迎えているのに オホーツク連絡会の動きみえず

りたい」とお礼を述べました。

TPPが重大な局面を迎えている今、壊滅的な影響を受けるオホーツク管内では、地域あげて「TPP合意」に反対の意思表示をすることが求められています。

しかし、オホーツク管内において、TPPに反対するとりくみを主導すべきオホーツク圏活性化期成会、および、とりくみを「機動的に行う」とを目的に作られたはずの「オホーツク連絡会」の動きがまったく見えてきません。

日本共産党北見市議団は今年2月に、活性化期成会の会長である櫻田真人北見市長にオホーツク管内での集会の開催のために力を尽くすべきと要請したときに市長は「機動的に対応するために、昨年12月に連絡会をつ

くった。(要請については)検討させていただく」と答えていました。

しかし、現在の緊迫した局面の中でも、事務局を担う北見市によれば「今はまだ新たな動きが必要な状況の変化はない」との意見がある」として、管内が足並みをそろえてのとりくみに足を踏み出そうとしていません。



いわぶち友「かけある記」

青年ボランティアと一緒に

日本共産党参議院予定低候補

いわ



五月二日から六日の日程で、民青同盟が主催する「第8次全国青年ボランティア@福島」が開催され、北海道から沖繩までたくさんの方々が参加し、「自分の目で確かめたい」と参加してくれました。北海道のみなさんは南相馬センターで活動。二日目に行われた交流会に「どうしても」と参加させてもらい会うことができました。

被災地フィールドワークでは、震災直後のままになっている様子や、放射線廃棄物が入ったフレコンバッグが山積みになっている様子に「言葉が出なかつた」という感想が次々出されました。

仮設住宅での聞き取りでは、「俺は復興なんてしてないと思う。国が俺たちのことをどう思っているのか。逆にこっちが聞いてみたい」と言われ、五月には泊原発が停止して三年となりました。国民のたまたかいは再稼働を許していません。感受性豊かでないやかで熱い青年のみなさんの思いに触れて、青年のみなさんとも一緒にたたかいてあげていこうとあらためて決意した青年ボランティアになりました。